

動労「本部」反動集団の敵対を粉碎し、 10.21~22闘争に決起しよう

日刊 動労千葉

79.10.17

No. 250

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八・九(公衆電話)三三三三・七二〇七

国鉄35万人体制攻撃粉碎・ジェット燃料増送阻止・三里塚二期工事阻止

われわれは、第一回臨時委員会(一〇月一二日)において10・21国際反戦闘争をジェット燃料増送阻止・国鉄三五万人体制攻撃粉碎などのスローガンをかけて10・22半日ストライキに決起することを決定した。動労千葉破壊のみに専念する動労「本部」反動集団は動労千葉一四〇〇組合員の10・21闘争への決起をなげになんでも阻止し、闘争を破壊しようとするやっきとなっている。しかし、われわれは、この間の動労「本部」反動集団によるありとあらゆる組織破壊攻撃を一つ一つ粉碎し、一四〇〇組合員の強固な団結をかちとってきた教訓にふまえ、いかなる困難や闘争破壊をものねのけ、10・21~22闘争を断固貫徹しよう。

動労千葉の正義の闘いに恐怖する動労「本部」反動集団！

総評をはじめ日本労働運動が総体として急速に右傾化を強め、支配階級の危機のりきりをかけた様々な反動攻撃に屈服しつつある中で、わが動労千葉の八〇年代を展望した戦闘的労働運動の再生に動労大改革運動は、今や着実に前進をかちとっている。

そして、われわれとは対照的に動労「本部」反動集団の反階級性と反動性は急速に全国の動労組合員の前に明らかとなっている。

動労「本部」反動集団は、このようなわが動労千葉の10・21~22闘争への決起の正義性と正当性に恐怖し、自らの反動性と反階級性が一層内外に明らかになることを恐れるがゆえに、わが動労千葉への反動的な敵対と闘争破壊にやっきとなっているのである。

動労「本部」反動集団に三里塚・ジェット闘争について「批判」する資格はない！

動労「本部」反動集団は、「10・10」事件に対し「再建情報」4~5などをつかって「一線を画す」方針は正しかった、などと三里塚敵対・ジェット闘争破壊の策動を一層強めている。

しかし、彼ら「本部」反動集団に一体全体三里塚闘争について、動労千葉のジェット闘争をあれこれ批判したりする資格があるのか。断じて否である。

「一線を画す」「反対同盟幹部は権力の手先き」「動労千葉は、燃料輸送問題で当局と取引をした」などなど、革マル派のみがいろいろしていたことを動労の運動方針として暴力的に強行したではないか。このような連中に三里塚闘争について語ったり批判したりする資格がないのは当然ではないか。

現に、津田沼、成田、新小岩などに押し入った「本部」反動分子に対し、動労千葉の組合員に「

『10・10』問題についてお前らにいわれるすじ合ではない』として、一蹴されているのが実態である。

「10・10」事件で乗務員を守り、運転保安のために努力したのは一体、誰なのか？！

「再建情報」5で動労「本部」反動集団は、「10・10」事件で、「現地調査団を派遣した」などといっているが、鈴木(真)、竹内、室井などが成田運転区に来たのが、何んと、一〇月一日の朝八時過ぎだったではないか。これで、何が、乗務員の安否だ！何が現地調査だ！

動労千葉本部は、事件発生後、一時間後には現地に三名の執行委員と成田支部役員を派遣し、当該乗務員を保護し、一日早朝四時には、運転保安確保について区当局との現場協議を行なったのである。

口先でいくら「動労の組合員だ」などといってみても現実に組合員の利益と生活を守るのはいずれの側にあるのか、「10・10」問題に対する対応でも明らかである。

「本部」反動集団の敵対を粉碎し、10・21~22闘争を貫徹しよう！

「10・10」事件を「絶好のチャンス」とばかりに三里塚・ジェット闘争を破壊せんとする動労「本部」反動集団の策動を粉碎し、10・21~22闘争に決起し、貫徹しよう。

第一波闘争の戦術

- 10/20 一四時千葉市本町公園「10・21国際反戦デー千葉集會」
- 10/21 一〇時成田運転区集會、最大限動員で「二期工事粉碎・国際反戦勝利三里塚現地集會」へ結集
- 10/21 一八時成田運転区構内で「10・22スト貫徹成田拠点集會」を開催、最大限動員で結集
- 10/22 (1)〇時より貨物列車を対象とした成田地区一二時間スト
(2)全組合員を対象とした始発時又は始業時から一二時までの減産A行動